

令和元年 7 月 31 日 (通巻第 171 号)

ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

一般情報など

(1) 受賞のお知らせ

YLBC クラブの代表であり B J 副理事長の依田成史さんが、横浜地区でのローンボウルズの普及活動の推進に対する長年の功により、このほど公益財団法人日本レクリエーション協会より「令和元年度レクリエーション運動普及振興功労者表彰」を受賞されました。表彰式は 9 月 13 日 (金)「第 73 回全国レクリエーション大会 in 宮城」の総合開会式の中で行われる予定です。おめでとうございます。

(2) 令和元年度第 2 回 B J 理事会の開催予定

日時：8 月 10 日 (土)

場所：今回は、具体的に検討する議題も少ない見込みであるため、集合会議方式とせずメールによる理事会方式とします。

議題予定：1. 令和 2 年度日本選手権大会の計画案についての検討
2. その他

(3) 新入会員の紹介

7 月の新入会者を紹介します。

佐藤 充子 さん NPO 法人ローンボウルズクラブ A L B C へ

花田 利騎 さん ローンボウルズ高知 U C へ

上記 2 名の方が入会されました。

(4) 訃報

学園都市ワイズメンズクラブ会員の日下隆夫氏が 7 月 28 日 (日) 夜ご自宅で永眠されました。同氏は昨年末から、週 3 回の人工透析を受けながら、復帰に向けて療養されていましたが、かなわず帰らぬ人となりました。謹んでお知らせするとともにお悔やみ申し上げます。

2019 年 7 月の行事、活動などの結果

(1) 第 6 回ジャパンオープン大会の実行委員会 (3 回) の開催

主催：B J 国際部

場所：明石公園 公園事務所西館 2 階 研修室

日時：7 月 18 日 (木) 14:00～17:00

結果：16名が参加して、実行グループごとの準備進捗状況の報告などにより、情報の共有化をはかった。出場チーム（国内および海外ともに）が確定した。
 昼食場所をどうするかが懸案課題となって、今後詰めることにした。

(2) SVリーグ2019年度前期大会(第5,6節)整える

主催：B J 関西支部 主管：SVリーグ実行委員会

リーダー：ALBC、会計：学園ワイズメンズクラブ、記録：村人クラブ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：7月3日(水)、20日(土) 9:30~13:00 (7~9月の間は、受付9:00までに完了)

結果：7月3日は交通マヒ、7月20日は雨天で中止となり、7月の大会実施は0回となり順位は6月末と変更なし。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
チーム名	タッチャーズC	村人クラブA	ALBC-A	ALBC-B	兵車車椅子	タッチャーズ-B	タッチャーズ-A	学園-A	学園-B	村人クラブB
勝点	24	22	22	21	19	18	18	16	12	6
点差	+54	+23	+2	+50	+13	-6	-19	-13	-35	-69

(3) Mリーグ2019年度上期大会(第7,8節)

主催：B J 関西支部 主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：7月13日(土)、28日(日) 9:00~12:00

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ戦を行う。ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント(引き分けなら1ポイント)}

表彰：70%以上の出席者で期間中の1試合当たり平均ポイントによる

成績結果：7月28日終了時の成績は以下の通りです(出席率70%以上の者)。

	氏名	平均ポイント	ポイント合計	出場試合数
1位	梶原洋介(生涯スポーツ)	6.20	93.00	15
2位	安部 宏(ローンボウルズ神戸)	6.18	68.00	11
3位	宮崎宗久(神戸タッチャーズ) 西口 明(神戸タッチャーズ)	6.08	79.00	13

(4) 中崎リーグの7月の結果

主催：ローンボウルズ中崎

日時：7月8日(月)、15日(月) いずれも 12:30~17:00

場所：明石市中崎遊園地内ローンボウルズグリーン(天然芝、4リンク)

結果：

	7月8日(第1回)	7月15日(第2回)
1位	樽井啓佑 (B S C)	関 政美 (A L B C)
2位	前林典子 (LB 中崎)	檜垣英男 (A L B C)
3位	檜垣英雄 (A L B C)	米谷一成 (LB 中崎)

(5) Aリーグカップ 2019年後期大会(第1、2節)

主催：B J 関西支部 主管：Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：7月7日(日)、21日(日) 12:45~16:00

結果：7月21日 終了時の成績結果は次の通り。

	A-1リーグ	A-2リーグ
1位	森 弘子 (学園ワイズ) 27点	樽井啓祐 (B S C) 28点
2位	野上京子 (神戸タッチャーズ) 24点	山形史朗 (学園ワイズ) 27点
3位	山崎俊夫 (A L B C) 23点 大杉正樹 (神戸ボウルズ) 23点	児島久雄 (兵庫車椅子) 22点 関口 溜 (A L B C) 22点

(6) 第2回韓国 KDVSC プレシデントカップ大会への参加結果

主催：韓国 KDVSC クラブ

場所：韓国 水原

月日：7月1日から6日まで

参加国：オーストラリア、ニュージーランド、タイ、シンガポール、インドネシア、
香港、韓国、日本で合計64名が参加(日本からは8名が参加)

結果：シングルス予選ラウンド(1グループが4名で総当たり戦3ゲームを実施し、4名中の
上位2名が決勝トーナメントに進出)

出場選手	ゲーム結果	予選結果
第1グループ 児島久雄	第1ゲーム オーストラリアに×8:11で負け 第2ゲーム 韓国に×5:11で負け 第3ゲーム ニュージーランドに×6:7で負け	全敗で4名中の最下位
第9グループ 植松博至	第1ゲーム 不戦勝 第2ゲーム 韓国に×3:13で負け 第3ゲーム ニュージーランドに○10:5で勝ち	1勝1敗1不戦勝が3名となり、得失点差で3位となる。
第10グループ 川村信子	第1ゲーム タイに○12:8で勝ち 第2ゲーム 韓国に×4:10で負け 第3ゲーム ニュージーランドに×5:12で負け	1勝2敗で4名中の3位
第11グループ 坂本紘一	第1ゲーム シンガポールに○6:4で勝ち 第2ゲーム 韓国に×3:19で負け 第3ゲーム ニュージーランドに○14:5で勝ち	2勝1敗で4名中の2位となり、決勝トーナメントに進出。

第12グループ 植松寿子	第1ゲーム シンガポールに×5：9で負け 第2ゲーム 韓国に×6：14で負け 第3ゲーム ニュージーランドに×4：12で負け	全敗で4名中の最下位
第13グループ 横井 恵	第1ゲーム シンガポールに×6：8で負け 第2ゲーム 韓国に×6：13で負け 第3ゲーム ニュージーランドに○9：2で勝ち	1勝2敗で4名中の3位
第14グループ 平松康雄	第1ゲーム シンガポールに×1：17で負け 第2ゲーム 韓国に×0：21で負け 第3ゲーム ニュージーランドに×3：21で負け	全敗で4名中の最下位
第15グループ 野上京子	第1ゲーム ニュージーランドに×2：18で負け 第2ゲーム 韓国に×8：11で負け 第3ゲーム 香港に×3：10で負け	全敗で4名中の最下位

シングルス決勝トーナメント結果：

1位から3位までが韓国、4位が韓国。

坂本選手は決勝トーナメント1回戦で韓国に敗退。

ペアーズ予選ラウンド結果（1グループが4名で総当たり戦3ゲームを実施し、4名中の上位2名が決勝トーナメントに進出）：

出場選手	ゲーム結果	予選結果
第2グループ 横井 恵 川村信子	第1ゲーム シンガポールに×3：7で負け 第2ゲーム 韓国に×4：11で負け 第3ゲーム ニュージーランドに×2：7で負け	全敗で4チーム中の最下位
第4グループ 植松寿子 野上京子	第1ゲーム シンガポールに△8：8で引分け 第2ゲーム 韓国に○6：2で勝ち 第3ゲーム ニュージーランドに○5：2で勝ち	2勝1引分けで4チーム中の1位となり、決勝トーナメントに進出。
第6グループ 植松博至 平松康雄	第1ゲーム 韓国に×0：9で負け 第2ゲーム オーストラリアに×3：12で負け 第3ゲーム ニュージーランドに○6：5で勝ち	1勝2敗で4チーム中の3位
第13グループ 坂本紘一 児島久雄	第1ゲーム 香港に×0：5で負け 第2ゲーム 韓国に×1：7で負け 第3ゲーム 韓国に○6：2で勝ち	1勝2敗だが得失点差で4チーム中の4位となる。

ペアーズ決勝トーナメント結果：

香港が1位、2位から4位までが韓国。

植松、野上チームは決勝トーナメント1回戦でオーストラリアに敗退。

(7) 明石公園グリーンのバンクの「跳ね返り防止板」の改修工事を実施

6年前に設置した「跳ね返り防止板」の材木が腐食してきたため、このたび材木の交換補修工事

を実施した。7月28日(日)9時から15時まで、ボランティア22名が参加して実施し完了した。たいへん暑い中をご協力いただいたボランティアの方々に御礼申し上げます(実行責任者ALBC 旭代表より)。

2019年8月以降の計画、予定

(1) 第6回ジャパンオープン大会の実行委員会(第4回)の開催

主催:BJ国際部

場所:明石公園 公園事務所西館2階 研修室

日時:8月15日(木)14:00~17:00

内容:各実行グループごとの進捗状況の報告と情報の共有化

(2) SVリーグ2019年度前期大会(第7,8節)

主催:BJ関西支部 主管:SVリーグ実行委員会

リーダー:ALBC、会計:学園ワイズメンズクラブ、記録:村人クラブ

場所:神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時:8月7日(水)、24日(土)9:30スタート~ (受付:9:00~)

競技内容:ペアーズ戦を2ゲーム行う。一人4球×8エンド(65分時間制限)

(3) Mリーグ2019年上期大会(第7,8節)

主催:BJ関西支部 主管:Mリーグ実行委員会

場所:神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時:8月10日(土)、25日(日) 9時15分スタート(9時10分までに受付完了のこと)

競技内容:チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント(引き分けなら1ポイント)}

参加申込み:事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。

参加費:一人200円。チーム編成は当日の抽選にて決定。

(4) 中崎リーグの8月の開催

主催:ローンボウルズ中崎

場所:明石市中崎遊園地内ローンボウルズグリーン(天然芝、4リンク)

日時:8月5日(月)、19日(月) いずれも 12:30~17:00

募集人員:max.24名(当日自由参加)。組み合わせは、当日抽選による

(5) Aリーグカップ 2019年後期大会(第3,4節)

主催：B J 関西支部 主管：Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：8月4日(日)、18日(日) 9:45~13:00 (夏季 暑さ対策)

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。

参加費：一人 200 円。チーム編成は当日の抽選にて決定。

(6) 「第74回全国レクリエーション大会 2020 ひょうご」プレ大会 チャレンジボウル 2018 大会

主催：NPO 法人 兵庫県レクリエーション協会、公益財団法人 日本レクリエーション協会

主管：NPO 法人グループわ、W i n g ローンボウルズクラブ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：8月31日(土) 9:00~17:00

競技方法：男女不問ペアーズ種目、1人4球×8エンド(または65分タイムアップ)戦を4試合実施する。

参加申し込み先：神戸タッチャーズ 坂本泰治氏(先着20チームで締め切る)

参加費：1チームあたり 2,000 円

(7) 男女ペアーズ日本選手権大会関東地区予選会

主催：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本(B J)

主管：B J 関東支部

場所：YC&AC ローンボウルズグリーン

日時：8月24日(土)~25日(日)

会員からの投稿

(1) 2019 ASIA PACIFIC CHAMPIONSHIPS に出場して

甲南ローンボアーズ 田町智之

6月14日~6月28日にかけて、アジア太平洋大会に出場しました。公式練習日が15日~17日の3日間もあり、BROADBEACH、MUSGRAVE HILL、CLUB HELENSVALEの3会場で練習することができました。日本のグリーンよりもスピードが速く、ウェイトを調整するのにとっても苦労しました。そんな姿を見られてか、ジョンさん(黒原さんの夫)にウェイトの調整方法を教えてもらい、何とかかなりそうかなと少し自信を持つことができました。

18日からのペアーズを頑張ろうと思っていた矢先、38°C近くの熱がでてしまい、出場を断念しました。皆さんにご迷惑をお掛けしてしまい、申し訳ありませんでした

24日から、フォアーズが始まりました。結果としては、5勝1分2敗のグループ2位に終わりました。初日を3連勝し、2日目は強豪のインドに勝利(大雨の中、最終1エンドで健太さんのスーパーショットが決まり、逆転勝利!!!)、最終日は香港に引き分けて決勝トーナメントに進出することができました。

決勝トーナメントのマレーシアには負けはしましたが、リード(自分)がヘッドを構築できていれば、勝てる見込みがあったかなと感じました。

今回、アジア太平洋大会のような大きな舞台で、初めてフォアーズという種目に出場しましたが、自分の後ろに3人の仲間がいることはとても心強いものだと実感しました。

自分がダメでも味方が上手くいけば自分のことのように嬉しい、このような新しい気持ち(自分にとっては)になれるのもフォアーズの魅力なのだと思います。

来年の世界選手権大会まで、あまり時間はありませんが、ドロウの精度を上げるための練習をひたすら続けていきたいと思います。

また同じ4人(田町・小山さん・佐藤さん・健太さん)で世界選手権に挑戦できるのが、とても楽しみです!!!

最後になりますが、大会期間中、一緒に戦い続けた日本のチームメイトの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(2) 私の印象に残った試合

オーストラリアクラブ 黒原恵子

私の一番印象に残った試合は、ニュージーランドの Jo Edwards とのシングルス戦です。

私は、出だしから好調にドロウが決まり試合をリードし続け、Jo Edwards をヒヤヒヤさせたのですが、さすが 世界 No. 1 の実力者、素晴らしい高度のテクニックで追い上げられ、残念ながら 21:8 で負けてしまいました。地元のメディアに小国日本の選手が健闘したとのコメントが出ていました。

セクション6位で、辛うじて2020年世界選手権大会への出場権を得、嬉しく思いますが、各国選手のレベルの高さを見せられ、もっとレベルアップが必要だと実感しました。”

AP の体験を、10月から始まる Canpion of Champions 大会に生かせる様、頑張りたいと思っています。

(3) 男子シングルス種目に出場して

学園都市ワイズメンズクラブ 森 紘一

AP大会のシングルス戦は、21点先取制(どちらかの選手が21点に到達したらゲーム終了)という方式のため、通常は2時間近く戦う(エンド数にすれば20エンドを越える)という長丁場である。

従って、その時のツキの有無といった要素はあまり関係なく、どれだけドロウショット(ジャックに近付けるショット)が正確で安定しているかで勝負は決まる。

今回の私の戦績は2勝6敗で9人中の7位であったが、その内訳は次の通りであった。

① 相手が21点取るまでに、こちらは一桁の点しか取れず、とても敵わないと思った相手(ニュージーランド、タイランド、香港) ② 実力はほぼ自分と同等と感じ、どちらが勝ってもおかしくないと思った相手(ニウエ、サモア、マカオ、ブルネ) ③ その中間で、相手がやや上手と思った相手(米国)。

この違いは、結局はドロウの正確さと安定性の差である。②の選手のレベルは、4球投げるうちの1球ないし2球がジャックに寄るといったレベルであり、どちらが先に付けるかでそのエンドの勝者が決まる。点数は1エンドにせいぜい1点ずつ取っていくことになる。

これに対し①のレベルの選手は、どんなジャック距離であろうと必ず4球ともにジャックに寄せること

ができる。このために②のレベルの選手との対戦ではアツと言う間に点差が開いてしまう。
Champion of Champions 大会は 9 エンド×2 セット制というやや短期決戦の形となるので、多少はツキの要素も影響し、様相はまた違ったものとなって来るのだろうかと思われるが、いずれにしても、練習の質と量が大切であると今更ながら再確認した。

写真左は、男子シングルの金メダルを取ったニュージーランド（シャノン・マックロイ）選手、右は銅メダルを取った香港（トニー・チュン）選手です。
予選での対戦前の 2 ショットです（どちらも一桁の点しかくれなかった。）



(4) AP大会レポート（アジアのレベルは上がっている）

オーストラリアクラブ 江村裕子

今回のアジア太平洋選手権には、前回に続き女子フォアーズ(4s)とトリプルズ(3s)のスキップとして出場しました。4s は今回も世界選手権への出場権を獲得できましたが、3s はまた予選突破出来ませんでした。

◆4s が予選通過したワケ◆

4s も 3s も 1 人 2 球の持ち駒でヘッドを作っていく種目ですから、リードとセカンドの計 4 球は先ず自陣に有利なヘッドを作ります。ここでヘッドが出来ないと球数の少ない 3s は致命的に苦しい。加えて、4s ならサードとスキップ、3s ならセカンドとスキップの連携で、ヘッドをどう守るか又は攻めるか決める。2 人のコミュニケーションが上手くいかなければ勝機は有りません。4s では今回もこれが上手くいったという事です。

◆アジアのレベルは上がっている◆

対戦相手として特に印象に残ったのは、

(1)パプアニューギニアや中国に、素晴らしく安定したドロウを見せる選手が増えた (2)インドは豪州やニュージーランドに圧勝できるレベルになっている (3)豪州から強力なコーチを招聘したタイのチームは、皆安定した質の高いショットを見せ、格段に強くなっている、という点です。

強豪国はもとより、タイや 4 年後に主催国となる中国も、「勝つ」事を目指して特別選抜したプレイヤー達を組織的に訓練しています。日本ではあり得ない育成法です。

◆楽しく頑張ればいい◆

私はこれまで在豪プレイヤーの多くがそうであるように当大会で勝つことに拘って来ましたが、的はずれでした。日本にとって国際大会とは、タイや中国や強豪国のようにエリートを養成して勝ちに行く場ではなく、ボウリングの裾野を広げる為のモチベーション・アップの場なのだと理解しました。そうであれば、日々のボウリングの先に誰もが楽しく頑張れる目標としてあればいい。この先日本が簡単に勝てる国は殆どなくなりそうですが、そんな事は問題にならない、と今さらながら思う次第です。

(5) AP大会レポート (日本がさらに強くなるためには)

オーストラリアクラブ 長谷部 健太

大会前に私は、日本チームの主目標は出来る限り多くの種目で来年の世界選手権大会の出場権を得ることであるとの信念を持っていました。そして、メダルを取ることが出来ればそれはボーナスであると思っていました。最終的には、私たちは女子のシングルスとフォアーズおよび男子のトリプルズとフォアーズで(男子ペアーズはわずか1ショットの差で逃したが)世界大会の出場権を得て、今回出場した全選手が再度来年に大会へ出場できることを達成しました。

ただし、男子トリプルズとフォアーズではどちらも予選グループで2位に付け決勝トーナメントに進出しましたが、どちらも順々決勝で敗れてベスト8にとどまりました。

日本国内ではローンボウルズの知名度はまだ低く、世界的に見ても強豪国の一員ではない事を考えると上記の結果は上々と言えるでしょう。でもまだまだ向上する余地はあります。私が以下に記すポイントは、私の主観的な意見ではありますが、みなさんの誰にとっても有益になるであろうと願っていることです。

今回最も良かったと私が思うことは、試合前には全員が「自分たちは勝てる」と信じながら試合に臨み、試合中もたゆまずにその方向に励んだことでした。いま対戦しているのがどの国であるかとか、それまでの成績が何勝何敗であるかとかについては全く問題にせず、目の前の試合に対して全員が強い闘志をもって向かっていきました。このことが、私たちが予想以上に良く戦い、ときには予期しない勝利を勝ち取ることが出来た理由であると信じます。

さらに言えば、私たちのチームの各人は、それぞれその能力と働きの良さで選抜された、日本人ボウラーとしては優れたボウラーであり、これまでの実績からも分かるように、チームとして良く戦えた時にはどこにも勝てる可能性があります。

第1のそして最大の課題は **consistency** (英語辞書によれば「首尾一貫性」となっているが、ローンボウルズでは「終始一貫してプレーが精緻であること」となる)をもっと向上させることであると考えます。優秀ボウラーとトップレベル・ボウラーとの違いは、何回良い投球をしたかだけでなく、何回悪い投球をしなかったか、の違いです。

日本チームは、良いボウルを何回も投げましたが、しばしばヘッドにおいて今ここに必要であるというボウルを投げられなかったことがありました。別の言い方をすれば、良い戦いをしたエンドがあっても、その次のエンドで平凡な戦いをしてしまうことがしばしばありました。たいていの相手にはこれでも良いでしょうが、トップレベルの相手と戦うときにはこれでは駄目で、すべてのエンドにおいてもっと

consistency を持たねばならず、そうすれば相手にもっとプレッシャーをかけることが出来ます。

この **consistency** は1つの試合の中だけの話ではなく、一日の中に3試合あれば3試合を通じて必要なものであり、大会期間中を通じて何日間も持ち続けなければならないものです。

今回の試合条件は困難なものがありました。天候条件の急変により第1週はグリーンが非常に重く、第2週は一転してグリーンが非常に軽くなりました。しかしながら1～2日間の試合を経過したら、一般的な **consistency** はもっと高められたと私は考えます。

次の課題は練習方法です。4年前のニュージーランドのAP大会のときは、練習ゲームよりもドリル（反復練習）をたくさんやりましたが、今年の練習方法（練習ゲーム主体）は狙いが無かったと感じました。練習ゲームは、チームとしてプレーする機会がなかった自分たちのチームワークを築くという意味では良かったのですが、系統的な反復練習をしなかった事で、多くの試合中に必要になった基本的なスキルが不足していたと考えます。

私はずっと以前から、試合中に常例的に直面するある特定の状況をセットしたドリルを多く練習してきました。これらのドリルを多く練習することにより、試合中に適切な投球方法をより自信を持って実行できるようになってきました。誰でも練習に行くときは、その練習活動で何を目標とするかを持つべきであると私は確信しています。単に無目的にボウルを投げているだけでは上達はしないでしょう。

私が次に言及したい課題は、国際大会に関する日本ローンボウルズの構造問題についてです。私はオーストラリアで育ったので日本国内における状況を十分には理解するのはむづかしいのですが、日本選手権大会は通常1日ないし2日間で開催しており、1試合は通常10エンド程度であると理解しています。これには次のような問題点があります。

第1の課題のところでも既に述べていますが、これでは全般的な **consistency** の向上に役立たず、国際大会の現実的な準備としては十分でないという事です。例えば、AP大会のシングルス戦は21点先取方式で、通常15～20エンドをプレーします。少ないエンド数の試合に慣れている選手は、このような長時間のプレーで集中し続けるのは、当然のことながら容易ではありません。選手は、精神的にも身体的にもこのような長時間の試合に慣れておく必要があります。

より長時間の試合を戦うリーグ戦方式（例えば、毎週土曜日開催の）の大会とか、2日間以上の日数をかけて行う選手権大会とかを開催するようにすれば、長期的に見ればこの課題への対処として役立ち、もっと **consistency** を高めることになるだろうと考えます。

最後に、日本代表として戦う機会を再度与えられたことは、私にとって途方もなく名誉なことであり、Bowls Japan に厚く感謝します。私たちには、常に改善すべき何かがあり、そして常に向上できるものと信じています。2020年の世界選手権大会では、頑張りましょう。（以上）

* 残る5名の選手からのレポートは、次号にて掲載します。